

MARK II Di866 PROFESSIONAL

キヤノン用

多機能デジタルTTLストロボ



取扱説明書

ニッシン製品をお買い上げいただき
誠にありがとうございます。

ご使用にあたっては、この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いいただきますようお願いいたします。また、カメラの操作・機能に関しましては、ご使用になるカメラの取扱説明書をご参照ください。

ニッシンDi866 MARK II キヤノン用は、キヤノン製デジタル一眼レフカメラ用の最新のデジタルTTL方式に対応するデジタルTTL用ストロボです。また、ホットシューやシンク口端子を備えたカメラに対しては、シンク口同調させることができます。

Di866 MARK II は、カラーアイコンにより機能が分かりやすい回転式カラー液晶を搭載し、初めての方にも操作が簡単です。

① 注意

Di866 MARK II キヤノン用は、キヤノンデジタル一眼レフカメラのE-TTL II 調光方式に対応しております。その他のTTL方式のカメラに取り付けた場合は、TTLが正常に機能しません。

1

特徴 ①： 回転式カラー液晶



1. カメラを縦や横に構えると、その向きに応じてカラー液晶画面が自動的に回転します。
2. 6つのカラーアイコンによる分かりやすいメニュー画面。

特徴 ②： 簡単操作

基本的なストロボ撮影は、Di866 MARK II をカメラに装着するだけでOKです。内蔵ストロボをお使いになるような感覚でご使用になれます。

特徴 ③： 多機能

Di866 MARK II は、カメラから離れて発光できるワイヤレスTTL機能や、高速シャッターに対応するハイスピードシンク機能、マルチ発光機能や外部調光機能など、豊富な機能を装備しており、さまざまな撮影に対応できます。

対応カメラ

最新の対応カメラ表は、<http://www.nissin-japan.com> でご確認ください。

2

安全上のご注意 ■必ずお守りください。

ご使用になる人や他人への危害、財産への損害を未然に防止する為、お守り頂くことの説明をしています。よくお読みになり取扱いにご注意ください。

	警告 この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。必ずお守りください。
	注意 この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が障害を負う可能性が想定される内容、および物理的損害の発生が想定される内容を示しています。必ずお守りください。

警告

- 本機は高電圧の部品を使用していますので、絶対に分解しないでください。修理の場合は、弊社サービスステーションかまたは、ご購入されたお店にお持ちください。
- 落としたり、破損したりした場合、または機器の中に物体が落ち込んだ場合には、絶対に露出部分に触れないでください。
- 人の目の前(特に乳幼児)に近づけて発光しないでください。目の近くで発光させると、視力傷害を起こす危険性があります。特に乳幼児を撮影する場合は1m以上離れてください。
- コップ、化粧品、薬品の入った容器のそばで使用しないでください。こぼれたり、機器の中に入った場合、火災、感電または傷害の原因になります。
- 本機は防水ではないので、雨がかかる場所や、湿度の高い場所に置かないでください。
- 自動車など40°Cを超えるような高温になる場所に放置しないでください。
- 可燃性ガスおよび爆発性ガスなどが大気中に存在する恐れがある場所で使用しないでください。

注意

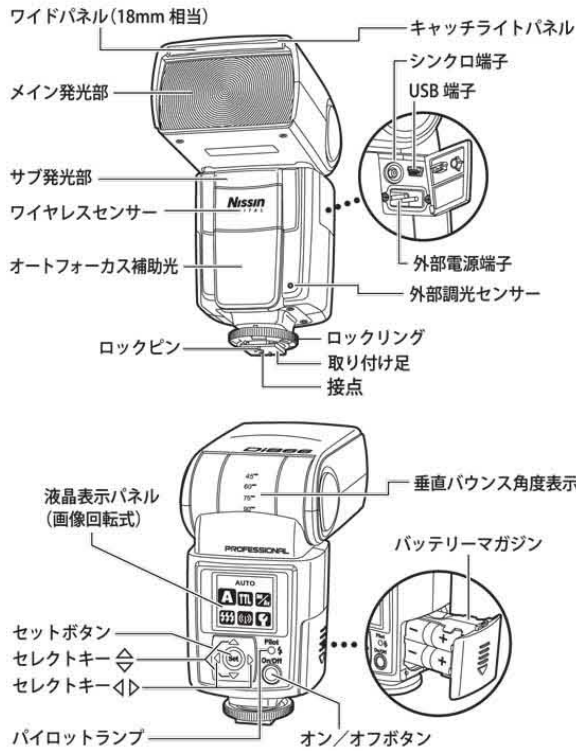
- 電池を高熱にさらさないでください。
- 乾電池は充電しないでください。
- 不安定な場所で本機を使用しないでください。バランスが崩れて倒れたり、落下したりすることにより怪我の原因となる場合があります。
- ストロボ発光部の発熱や劣化を防止するため、連続発光は20回までに抑えてください。また、20回連続発光したあとは、10分以上休止してください。

その他の注意

- ベンジンやシンナー、アルコールなどで本機を拭かないでください。変色や変形の原因となります。汚れのひどいときは柔らかい布で乾拭きしてください。
- 本機を長期間使用しない場合は、電池を抜いて保管してください。

3

各部の名称



付属品

三脚ねじ穴付きミニスタンド

ソフトケース

取扱説明書

4

メニュー画面について

Di866 MARK IIの基本的な発光モードと機能について



- A** … フルオートモード
- TTL** … TTL自動調光モード
- M/Av** … 手動設定モード
- Multi** … マルチ発光モード
- Wireless** … ワイヤレスTTLモード
- Custom** … カスタム設定モード

- A** **フルオートモード** …………… P.10
発光量が自動的に調節されます。初心者の方にお勧めのモードです。
- TTL** **TTL自動調光モード** …………… P.12
発光量が自動的に調節されます。ストロボによる微調節ができ、サブ発光機能もご使用になれます。
- M/Av** **手動設定モード** …………… P.17
マニュアルモード(M) — 発光量を手動で調節できます。
外部調光モード(Av) — カメラとストロボの絞りを合わせると、発光量が自動的に調節されます。
- Multi** **マルチ発光モード** …………… P.23
ストロボの連続発光が行えます。発光間隔と発光回数を変更することができます。
- Wireless** **ワイヤレスTTLモード** …………… P.25
ワイヤレスでTTL制御できるモードです。本機をマスターやリモートに設定することができます。
- Custom** **カスタム設定モード** …………… P.32
お客様のお好みで本機をカスタマイズすることができます。

5

より進んだ設定について

ストロボでセットする機能 … モードによっては、より進んだ設定を可能にするアドバンス機能を選択できます。

アドバンス機能	発光モード	
サブ発光機能 (P.14)	TTLモード	手動設定モード
手動ズーム (P.15)	TTLモード	手動設定モード
スレープ機能 (P.19)	手動設定モード	
ハイスピードシンクロ機能	TTLモード	
後幕シンクロ機能	TTLモード	
オートフラッシュブレイク	TTLモード*1	
絞り設定	手動設定モード*2	
ISO設定	手動設定モード*2	

*1 手動で解除します。

*2 Di866 MARK IIをスレープで使用する時やシンクロ同調(TTLでない)で使用する時に必要な設定です。

- 後幕シンクロ機能** …………… P.15
後幕シンクロにセットすると、シャッター幕が閉じられる直前にストロボが発光を行います。
- HS** **ハイスピードシンクロ機能** …………… P.16
ストロボ同調スピードよりも速いシャッタースピードでストロボを発光させることができる機能です。
- +** **オートフラッシュブレイク** …………… P.16
発光量の補正值を変えながら、連続して撮影を行うことができる機能です。

カメラによってセットされる機能 … カメラによって自動的に制御される機能があります。

- FE Lock** **FERロック** …………… P.33
最初にストロボの調光をロックした後にフレームを移動させて撮影することができます。

6

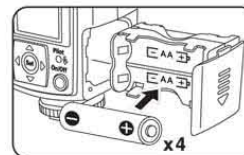
基本操作

電池の挿入

使用できる電池: ニッケル水素電池、アルカリ電池、リチウム電池

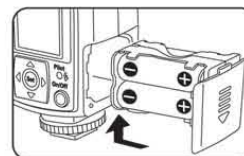


1. バッテリーマガジンを取り外して、単3電池4本を図のように挿入します。



2. バッテリー室は、同じ方向に電池を挿入できますので、暗い場所でも電池の入れ替えが楽にできます。

3. 電池室の+/−のマークに従って、電池を挿入してください。



4. バッテリーマガジンを本体に戻してください。

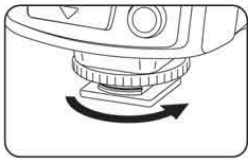
リサイクルタイムが20秒以上になる場合は、新しい乾電池に交換して下さい。充電電池の場合は充電してください。

注意

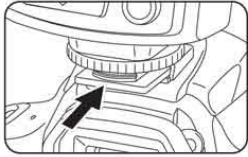
電池は、同じブランドで同じタイプの新しい電池を使用してください。同時に交換することをお勧めします。また、充電電池の場合は、4本とも同時に充電した電池を使用してください。

7

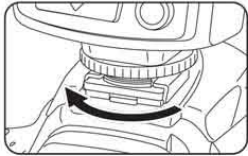
Di866 MARK II をカメラに装着する



1. Di866 MARK II とカメラの電源をあらかじめOFFしておきます。
2. Di866 MARK II のロックリングを図のようにまわして緩めます。



3. Di866 MARK II の取り付け足をカメラのホットシューに差し込みます。



4. ロックリングを図のように回して、締めつけます。

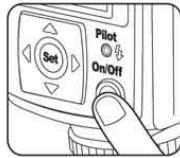
5. ロックピンが突き出て、取り付け足がホットシューに固定されます。

Di866 MARK II をカメラから取り外す

- ロックリングを緩め、Di866 MARK II の取り付け足をカメラのホットシューから外します。ロックピンがホットシューに引っかからないように、ロックリングを十分に緩めるようにしてください。

電源を入れる

- 「オン/オフボタン」を押します。Aモードの画面が表示され、セットされます。
- パイロットランプが赤色に点滅し、充電を開始します。
- 数秒後にパイロットランプが緑色に点灯します。
- 操作を最後に行った後、液晶画面は自動的に30秒後に消えます。
- テスト発光を行いたいときは、パイロットランプを押してください。
- 手でストロボをOFFにするには、「オン/オフボタン」を2秒間押してください。



8

Di866 MARK II の省電力機能

1. スタンバイモード

本機は、カメラが操作されなくなってから、またはDi866 MARK II が最後に操作が行われてから約30秒後に自動的にスタンバイモードに入ります。Di866 MARK II がスタンバイモードの間は、液晶画面は消えたままになり、スタンバイモードであることを示すために、緑のパイロットランプが2秒ごとに点滅します。液晶画面を復帰させるには、カメラのシャッターボタンを半押しするか、本機のボタンのどれかを押してください。

2. ディスプレイ設定

本機は、より電力を節約するために、カスタム設定によりディスプレイ設定をOffにして表示時間を短くすることができます。この場合は、無操作状態から約8秒後にスタンバイモードに入ります。

ディスプレイ設定がOFFの時にスタンバイモードに入ると、カメラのシャッターボタンを押しても液晶画面は復帰しません。液晶画面を復帰させるには、本機のボタンのどれかを押してください。

3. オートオフモード

Di866 MARK II が30分以上操作されない場合、本機の電源がオフになります。Di866 MARK II の電源をオンにするためには、もう一度「オン/オフボタン」を押して再起動してください。

Di866 MARK II がオフカメラの設定(ワイヤレスTTLモードのリモート設定やマニュアルモードや外部調光モードのスレープ設定)でご使用になる時は、オートオフモードを60分に設定変更されることをお勧めします。オートオフの時間設定は、P.32のカスタム設定をご覧ください。

9

モードと機能の設定

A フルオートモード


本モードでご使用になれるカメラのモード：

[] フルオート、[P] プログラム、[Tv] シャッタースピード優先モード、

[Av] 絞り優先モード、[M] マニュアル

その他の、ピクチャーモード(カメラによって異なります。)

上記のカメラのモードに設定すると、i-TTL自動調光システムをご利用いただくことができます。

- Di866 MARK II をカメラのホットシューに装着し、カメラと本機の電源をオンにします。
- 液晶画面は自動的にAとなり(工場出荷時の状態)、カメラと通信を開始します。
- この状態でカメラのオン/オフボタンを押すとモードがロックされます。(もう一度押すと「オン/オフボタン」を押すとロックが解除されます。)
- 設定は以上です。
- パイロットランプが緑に変わりましたら、カメラのシャッターを半押しし、被写体にピントを合わせてください。
- カメラのファインダー内にシャッタースピード、絞り、フラッシュマーク  が表示されましたら、シャッターボタンを押してください。Di866 MARK II が発光します。
- 発光量は、カメラによって制御されます。レンズの焦点距離を変更すると、画角に合わせてDi866 MARK II の照射角(発光する角度)が自動的に最適な角度に調節されます。照射角は本機の液晶画面に表示されます。



10

- Di866 MARK II のオートズームは、35mm フィルムフォーマット換算で、24mm から 105mm 以上の焦点距離をカバーします。

カメラのモードをセットし、焦点距離を選び、カメラに Di866 MARK II を装着して撮影を行ってください。Di866 MARK II はクリエイティブで生き生きとした写真を撮るための助けとなるでしょう。フルオートモードでは、ほとんどの操作をカメラ側で行うことができます。フルオートモードは、カメラの操作だけで済みますので、気軽に撮影を行うことができる初心者向けのモードです。

モード	シャッタースピード	絞り	カメラの制御
[<input type="checkbox"/>]	自動	自動	自動
[P]	自動	自動	自動
[Tv]	手動	自動	シャッタースピードが選べます
[Av]	自動	手動	絞り値が選べます
[M]	手動	手動	シャッタースピードと絞りが選べます

11



TTLモード(調光補正機能付き)

最新のデジタル TTL 調光システムでは、最適な露出のために自動的にストロボの発光レベルを制御しています。被写体と背景のバランスを取るために、調光補正機能により、発光量を強めたり弱めたりすることもできます。

本機の TTL モードでは、ストロボ操作により簡単に調光補正を行うことができます。

本モードでご使用になれるカメラのモード：

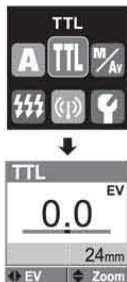
[**O**] フルオート、[**P**] プログラム、[**Tv**] シャッタースピード優先モード、

[**Av**] 絞り優先モード、[**M**] マニュアル

その他の、イメージモード(カメラによって異なります。)

上記のカメラのモードに設定すると、E-TTL II 自動調光システムをご利用いただくことができます。

- Di866 MARK II をカメラのホットシューに装着し、カメラと本機の電源をオンにします。
- 液晶画面に現在設定されているモードの画面が表示されます。
- Set ボタン **Set** を押すと6つのアイコンが表示されるメニュー画面に切り替わります。
- セレクトキー \triangleleft \triangleright \diamond により「TTL」を選び、Set ボタン **Set** を押します。(何も選択されない場合は、約8秒後に自動的に前に選択されていたモードの画面に戻ります。)
- TTL 調光補正を行う場合は、セレクトキー \triangleleft \triangleright を押します。-3.0EV ~ +3.0EV まで 1/3EV ステップごとに値を選択できます。



TTLモードのアドバンス設定

アドバンス設定は、よりクリエイティブな撮影を楽しむことができるモードです。アドバンス設定では以下のような機能をご利用いただけます。

サブ発光機能

Di866 MARK II はメイン発光部に加え、第2の小さな発光部である「サブ発光部」を備えています。このサブ発光部はメイン発光部が回転している時(パウンス)のみ機能します。サブ発光により、パウンス発光の時、被写体に下方向にできる影を和らげることができます。

- 液晶画面に「TTLモード」の画面が表示されている状態で、Setボタン **Set** を2秒間押しすると、「TTL ADVANCE」の画面に切り替わります。
- セレクトキー \diamond によりSub. Flashを選び、セレクトキー \triangleleft \triangleright によりOnを選択し、Setボタン **Set** を押します。(何も選択されない場合は約8秒後にもとのTTLモードの画面に戻ります。)
- サブ発光は、撮影状況に合わせて、6つの光量レベルを選ぶことができます。

サブ発光部の光量	ガイドナンバー(ISO100)
1/1 (Full power)	12
1/2	8.5
1/4	6
1/8	4
1/16	3
1/32	2
1/64	1.5
1/128	1

- サブ発光機能はメイン発光部がパウンス状態の時のみ有効です。サブ発光機能が発光可能な状態の時は、TTL モードの画面に「SUB」が表示されます。メイン発光を正面の位置へ戻すと「SUB」の表示が消え、サブ発光機能が解除されます。



- 補正値をロックする場合は、「オン / オフボタン」を押してください。(もう一度「オン / オフボタン」を押すとロックが解除されます。)
- 調光補正が必要な場合は、背景とのバランスを見ながら、被写体の露出を調整してください。
- カメラによっては、カメラ側から調光補正を行うことができます。(詳しくはカメラの取扱説明書をご覧ください。)また、ストロボ側でも、カメラ側でも調光補正がセットされている場合は、両方の補正値が合算されます。
- 本機の液晶画面には、本機でセットした調光補正値のみが表示されます。(カメラ側の調光補正値は反映されません。)



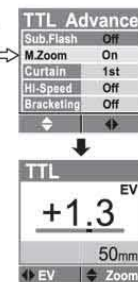
カメラのモードをセットし、焦点距離を選び、カメラに Di866 MARK II を装着して撮影を行ってください。

撮影状況によっては、調光補正を行うとよりよい撮影が可能です。TTL モードは、ほとんどの操作をカメラ側で行うことができますし、ストロボ側で調光補正もできる便利なモードです。TTL モードは、ストロボ操作に慣れた方にとって使いやすいモードです。

マニュアルズーム設定

Di866 MARK II の照射角は手動で設定することもできます。Di866 MARK II をキヤノン以外のカメラに使用する場合は、フィルムカメラに使用する場合は、オートズームが連動しません。このような場合には、マニュアルズーム設定を行います。画角に対して照射角を任意に変更するような場合にも、マニュアルズーム設定を行うことができます。

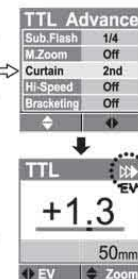
- TTLモードの画面にして、Setボタン **Set** を2秒間押しするとTTL ADVANCEの画面が表示されます。
- セレクトキー \diamond を押し、M.Zoomを選択し、続けてセレクトキー \triangleleft \triangleright を押しM.ZoomをOnにします。Setボタン **Set** を押すかまたは、なにも操作しなければ8秒後に、設定が保存され、TTLモードの画面に戻ります。
- セレクトキー \diamond を押し、24mmから105mmまで任意でズーム位置をお選び頂けます。



後幕シンクロ機能

ストロボは通常カメラのシャッター幕が開いた直後に発光しますが、Di866 MARK II は、スローシャッターを使って撮影を行うための、シャッター幕が閉じる直前に発光を行う「後幕シンクロ」に設定することができます。これにより、動いている被写体の軌跡を、自然に表現することができます。

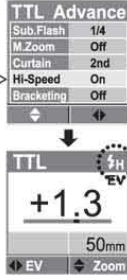
- TTLモードの画面にして、Setボタン **Set** を2秒間押しするとTTL ADVANCEの画面が表示されます。
- セレクトキー \diamond を押し、Curtainを選択し、続けてセレクトキー \triangleleft \triangleright を押し2nd(後幕シンクロ)を選択し、Setボタン **Set** を押します。(何も選択されない場合は、8秒後にもとのTTLモードの画面に戻ります。)
- 後幕シンクロ機能が有効になっていることを示す \triangleright が TTLモード画面の右上に表示されます。このマークが表示されていない時は、ノーマル(先幕)シンクロに設定されています。



ハイスピードシンクロ機能

ハイスピードシンクロ機能をONにすると、ストロボ同調スピードより高速なシャッタースピードでストロボ発光ができるようになります。

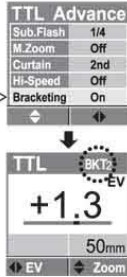
- TTLモードの画面にして、Setボタン **Set** を2秒間押すとTTL ADVANCEの画面が表示されます。
- セレクトキー \diamond を押して、Hi-Speedを選択し、続けてセレクトキー \triangleleft を押してOn(ハイスピードシンクロ)を選択し、Setボタン **Set** を押します。(何も選択されない場合は、8秒後にもとのTTLモードの画面に戻ります。)
- ハイスピードシンクロ機能が有効になっていることを示す H がTTLモード画面の右上に表示されます。このマークが表示されていない時は、ノーマル(先幕)シンクロに設定されています。



オートフラッシュブラケットिंग (FEB)

Di866 MARK IIは、オートフラッシュブラケットिंग機能により、連続したコマをあらかじめ設定した補正間隔によりブラケット撮影を行うことができます。

- TTLモードの画面にして、Setボタン **Set** を2秒間押すとTTL ADVANCEの画面が表示されます。
- セレクトキー \diamond を押して、Bracketingを選択し、続けてセレクトキー \triangleleft により好みのEVステップを±0.3~±3.0の範囲から選び、Setボタン **Set** を押します。(何も選択されない場合は、8秒後にもとのTTLモードの画面に戻ります。)
- ブラケットिंग機能が有効になっている時は、BKT BKT2 がTTLモード画面の右上に表示されます。



※イメージモードに設定されている時は、Di866 MARK IIは自動的に「TTL-AUTO」モードに固定されます。このモードでは、調光補正機能がご使用になれませんが、その他のアドバンス機能は設定可能です。

16

- セレクトキー \diamond により、F.Stop(絞り)を選び、続けてセレクトキー \triangleleft により、カメラにセットされている絞り値と同じ値を選んでください。
- Setボタンを押すかまたは、何もしなければ8秒後に、設定が保存され、Mモードの画面に戻ります。
- 「オン/オフスイッチ」を押すと設定がロックされます。(もう一度押すとロックが解除されます。)



18



マニュアルモード(手動設定モード)

本モードでご使用になれるカメラのモード: [M]または[Av]

本機の発光量は手動で調節することが可能です。撮影者は、カメラにセットした絞り値に対して、最適な発光量を手動で本機にセットすることができます。発光量は、フル光量から 1/128 光量まで 1/3 絞りごとに 22 段階の中から選ぶことができます。

対応するキヤノンデジタル一眼レフカメラに装着した場合

- カメラのモードを[M]または[Av]にセットします。
- Di866 MARK IIのメニュー画面からセレクトキー \triangleleft \diamond により「M/Av」を選んでSetボタン **Set** を押します。
- セレクトキー \triangleleft \triangleright により「M」を選びSetボタン **Set** を押します。
- セレクトキー \triangleleft \triangleright により好みの光量を選びます。
- カメラから自動的に送信されたISO感度および絞り値の情報もとに、Mモードの画面上に最適な露出を得るための撮影(発光)距離が表示されます。



キヤノン以外のカメラに使用する場合は、フィルムカメラに使用する場合

(マニュアルモードのアドバンス設定により行います。)

キヤノン以外のカメラに使用する場合は、フィルムカメラに使用する場合には、カメラにセットした ISO 感度と絞り値と同じ値を本機にセットしなければ、本機の液晶画面上に撮影距離が表示されません。

- マニュアルモードの画面でSetボタン **Set** を2秒間押すと「マニュアルモードのアドバンス設定」に切り替わります。
- セレクトキー \diamond により、ISO (ISO感度)を選び、続けてセレクトキー \triangleleft \triangleright により、カメラにセットされているISO感度と同じ値を選んでください。



17

マニュアルモードのアドバンス設定

マニュアルモードではアドバンス設定を行うことができます。前述したISOとF.Stopの設定以外に、以下のアドバンス機能が利用できます。

サブ発光機能 ————— P.14をご参照ください。

マニュアルズーム設定 ————— P.15をご参照ください。

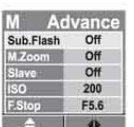
スレーブ発光機能

Di866 MARK IIは、汎用のスレーブ発光機能を備えています。本機能をお使いになると、Di866 MARK IIをカメラから離して、被写体にさまざまな方向からライティングを行うことができます。本機のスレーブ発光機能にはSDとSFの2つの発光モードがあり、マスター側(発光元のストロボ)の発光方式に従って、お選びいただけます。

SD: このモードをセットするとDi866 MARK IIは、多くのデジタルカメラ用ストロボで採用されている方式であるプリ発光方式のマスターストロボに同調します。マスターストロボの発光モードはE-TTL II にセットしてください。

SF: このモードをセットするとDi866 MARK IIは、多くのフィルムカメラ用ストロボやスタジオ用大型ストロボで採用されている単発光のマスターストロボに同調します。デジタルカメラ用ストロボで、マニュアル発光モードに設定した場合は、Di866 MARK IIをこのモードにセットしてください。

- Di866 MARK IIのスレーブモードを設定するには、Mモードの画面上でSetボタン **Set** を2秒間押し、マニュアルモードのアドバンス画面に切り替えます。
- セレクトキー \diamond を押して、Slaveを選び、続けてセレクトキー \triangleleft \triangleright によりSDまたはSFを選びます。



19

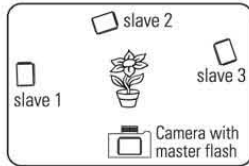
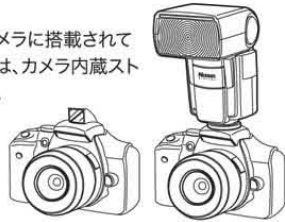
●スレーブ発光機能の設定方法

【マスターストロボの設定】

マスター側となるストロボを設定します。カメラに搭載されている外付けストロボの電源を入れるかまたは、カメラ内蔵ストロボをポップアップして起動してください。

【スレーブストロボ(Di866 MARK II)の設定】

スレーブストロボは複数台を設置することができます。Di866 MARK IIのMモードのアドバンス設定画面からSlaveのSDまたはSFを選択します。マスターストロボの発光方式に合わせて選んでください。本機がスレーブモードがセットされると、スレーブ状態であることを示すために、ストロボのフロント部分のAF補助光が2秒ごとに発光します。



- スレーブストロボを設置する時は、付属の三脚ねじ穴付きミニスタンドをご使用できます。三脚に固定する時にお使いください。

- マスターストロボの発光を受光するスレーブセンサーは、ストロボのフロントの赤パネル内に格納されています。スレーブストロボが同調しない場合は、バウンス機構を利用してマスターの発光を受けやすいように角度を調節してください。



ワイヤレスセンサー

① 注意

本機を他社のアクセサリシューに固定する時は、金属製のものはご使用にならないでください。シューコンタクトがショートして、本機にダメージを与える場合があります。

Di866 MARK IIのスレーブ機能を選択した場合は、ズーム設定が自動的にマニュアルに切り替わり、照射角24mmになります。ズーム位置は手動設定できますので、好みの照射角に切り替えてご使用ください。スレーブ機能をお使いになる時は、カスタム設定モードにより本機のオートオフ機能を60min.にしてご使用になることをお勧めします。

20

キヤノン以外のカメラに使用する場合や、フィルムカメラに使用する場合

(外部調光モードのアドバンス設定により行います。)

キヤノン以外のカメラに使用する場合や、フィルムカメラに使用するには、カメラにセットしたISO感度と同じ値を本機にセットしてください。その他の設定は、前記の「対応するキヤノンデジタル一眼レフカメラに装着した場合」と同様です。

- マニュアルモードの画面でSetボタン **Set** を2秒間押すと「マニュアルモードのアドバンス設定」に切り替わります。
- セレクトキー $\triangleleft \triangleright$ により、ISO (ISO感度) を選び、続けてセレクトキー $\triangleleft \triangleright$ により、カメラにセットされているISO感度と同じ値を選んでください。

外部調光モードのアドバンス設定

マニュアルモードではアドバンス設定を行うことができます。前述したISOの設定以外に、以下のアドバンス機能が利用できます。

サブ発光機能 ————— P.14をご参照ください。

マニュアルズーム設定 ————— P.15をご参照ください。

スレーブ発光機能 ————— P.19をご参照ください。

22



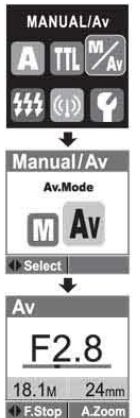
Av 外部調光モード(手動)設定モード)

本モードでご使用になれるカメラのモード: [M] または [Av]

Di866 MARK IIは、本機に搭載された内蔵センサーにより発光量を自動的に調節することができます。カメラにセットした絞り値と同じ値を Di866 MARK II にセットすると、最適な露出のための自動調光を調光範囲内において行います。

対応するキヤノンデジタル一眼レフカメラに装着した場合

- カメラのモードを[M]または[Av]にセットします。
- Di866 MARK IIのメニュー画面からセレクトキー $\triangleleft \triangleright$ により「M/Av」を選んでSetボタン **Set** を押します。
- セレクトキー $\triangleleft \triangleright$ により「Av」を選びSetボタン **Set** を押します。
- セレクトキー $\triangleleft \triangleright$ により好みのF値(絞り)を選びます。
- 「オン/オフスイッチ」を押すと設定がロックされます。(もう一度押すとロックが解除されます。)
- Di866 MARK IIでセットしたF値と同じ値をカメラにセットしてください。
- Di866 MARK IIの液晶画面上には、選んだF値と調光距離範囲と焦点距離が表示されます。
- 調光距離範囲内において、最適な露出のため、発光量は自動的に制御されます。適正な制御をおこなうためには、少なくとも被写体から1m以上離れて撮影してください。
- 焦点距離やF値を変えると、液晶画面に表示されている撮影(発光)距離が変わります。
- Di866 MARK IIの外部調光モードは、Di866 MARK IIのF値とカメラのF値とが連動しません。本機のF値を固定して、カメラのF値を変えることにより、補正を行うことができます。
- カメラのISO感度を変更すると、F値が自動的にリセットされますので、F値を再設定してください。



21



マルチ発光モード

本モードでご使用になれるカメラのモード: [M]

マルチ発光モードは、ストロボを連続発光させるモードです。この機能により一枚の画像に被写体の動きを軌跡として記録することができます。本モードでは、撮影前に発光量、発光間隔、発光回数を設定します。

Frequency: 発光間隔

1秒あたりの発光回数。1Hzから90Hzまで設定できます。数値が大きいほど短いサイクルで発光します。

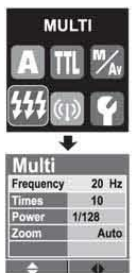
Times: 発光回数

1コマで発光させる回数。1回から90回まで発光できます。数値が大きいほど発光回数が増えます。

Power: 発光量

1/128の光量から1/8まで5つの発光量から選べます。

- カメラの設定モードを[M]にします。
- カメラのシャッタースピードを次ページの表を参考にして、セットしてください。
- Di866 MARK IIのメニュー画面からセレクトキー $\triangleleft \triangleright$ により左下の **Multi** アイコンを選択し、Setボタン **Set** を押します。
- マルチ発光モードの設定画面が表示されます。
- セレクトキー $\triangleleft \triangleright$ により項目を選び、セレクトキー $\triangleleft \triangleright$ により好みの値を設定します。
- 「オン/オフスイッチ」を押すと設定がロックされます。(もう一度押すとロックが解除されます。)



23

① 注意

カメラにセットするシャッタースピードは、下記の計算式により算出できます。

$$\text{発光回数} \div \text{発光間隔} = \text{シャッタースピード}$$

【例】:10Hzの発光間隔で20回発光させる場合 → 20÷10=2

シャッタースピードは2秒以上の長さにセットしてください。
シャッタースピードをバルブ設定しても構いません。

マルチ発光の発光回数のガイド表

Power	Hz	1	2	3	4	5	6-7	8-9	10	11	12-14	15-19	20-50	51-90
1/8		14	14	12	10	8	6	5	4	4	4	4	4	4
1/16		30	30	30	20	20	20	10	8	8	8	8	8	8
1/32		60	60	50	40	30	25	20	12	12	12	12	12	12
1/64		90	90	80	70	50	35	25	20	20	20	20	20	20
1/128		90	90	80	70	50	35	25	20	20	20	20	20	20

① 警告

マルチ発光は10コマ以上の連続発光を行わないようにしてください。
連続発光後は、10~15分以上発光を休止してください。発光部が過熱しすぎると、ストロボにダメージを与える場合があります。



ワイヤレスTTLモード

Di866 MARK II は、カメラから離して使用できるワイヤレスリモート方式として「スレーブ (手動設定モード P.19 にて既述)」と「ワイヤレス TTL」の2方式に対応しています。本章ではワイヤレス TTL について解説いたします。

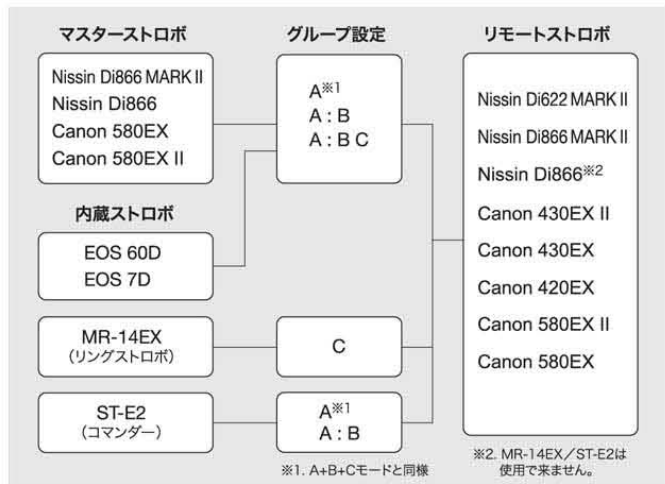
ホットシューに直接、または TTL オフカメラコードでカメラに接続された外付け TTL ストロボを「マスターストロボ」と呼びます。マスターストロボとして1台のストロボが必要です。

カメラから離して使用する外付けストロボは「リモートストロボ」と呼びます。リモートストロボは複数のストロボを設置することができ、3つの異なるグループ (A、B、C グループ) に割り振ることができます。

マスターストロボとリモートストロボの通信には、混線を防ぐための4つのチャンネルが用意されています。

ワイヤレスTTLの組み合わせについて

組み合わせチャート図



リモートストロボ

リモートストロボの設定を行う前に

- Di866 MARK II は、初期設定では30分後に電源がオートオフになります。リモートストロボの設定を行う前に、カスタム設定モードよりオートオフ設定を60分後にすることをお勧めします。(P.33をご参照ください)
- リモートモードでの照射角の設定はマニュアルズーム設定のみとなります。初期状態は照射角24mmとなっております。好みの照射角に設定する場合は、リモート設定画面においてZoomを選び、セレクトキー<D>により照射角を変更してください。
- リモートストロボを設置するために、付属の三脚ねじ穴付きミニスタンドを使用することができます。ミニスタンドに本機を取り付け、平らな場所に置いたり、三脚に取り付けたりすることができます。
- リモートストロボを設置するにあたり、下記の点についてご注意ください。
 1. リモートストロボは、カメラの画角に入らないような場所に設置してください。
 2. リモートストロボのワイヤレスセンサーがマスターストロボの発光を受光できる場所に設置してください。
 3. ワイヤレスセンサーに直接太陽光が入らないようにご注意ください。センサーが飽和し、マスターストロボの発光を感じにくくなり、ワイヤレスTTLが正常に機能しません。このような場合は、ワイヤレスセンサーに太陽光が入りにくいように位置を調節すると改善される場合があります。



マスターストロボの設定

マスターストロボで設定できるモードは、TTL モードかまたは M モードです。マスターストロボでは、チャンネル、ズーム位置、マスターストロボの発光モードおよび A,B,C それぞれのグループのリモートストロボの発光モードを設定することができます。

- メニュー画面上で、セレクトキー<D><D>を押して、(P)マークを選びSetボタン<Set>を押します。ワイヤレスTTLモードの画面が表示されますので、セレクトキー<D>により[M]を選び、Setボタン<Set>を押してください。

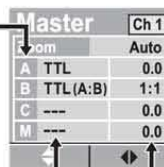
最初にマスターストロボの設定を行います。

- チャンネルChが選択されていますので、セレクトキー<D>により、チャンネル1~4のうちから使用するチャンネルを選びます。
- セレクトキー<D>を押して、次の項目Zoomの設定をします。セレクトキー<D>を押して、ズーム位置をAutoまたは24mm~105mmの照射角に固定します。

グループの設定

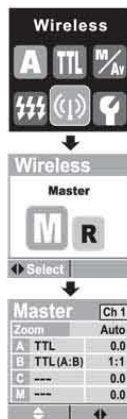
グループ

- M = マスターストロボ
- A = グループ A
- B = グループ B
- C = グループ C



- 発光モード
TTL = TTL モード
M = マニュアル
... = 発光停止

- 設定値
調光補正值 (TTL モード時)
-3.0EV ~ +3.0EV (1/3EVステップ)
発光量 (M モード時)
1/1 ~ 1/128 (1EVステップ)



●グループAのみの場合(グループAの設定)

- セレクトキー \triangleleft によりA(グループA)を選択します。
- セレクトキー \triangleleft により、中央の発光モード選択の項目に移動し、TTLまたはM(マニュアル)を選びます。

【グループAでTTLを選択した場合】

- セレクトキー \triangleleft により、右端の設定値選択の項目に移動し、調光補正値を選びます。
- セレクトキーにより、M(マスター)の項目に移動します。
- セレクトキー \triangleleft により、中央の発光モード選択の項目に移動し、TTLまたは…(発光停止)を選びます。
- マスターの発光モードをTTLにした場合は、セレクトキー \triangleleft により、右端の設定値選択の項目に移動し、調光補正値を選びます。

【グループAでM(マニュアル)を選択した場合】

- セレクトキー \triangleleft により、右端の設定値選択の項目に移動し、発光レベルを選びます。
- セレクトキーにより、M(マスター)の項目に移動します。
- セレクトキー \triangleleft により、中央の発光モード選択の項目に移動し、M(マニュアル)または…(発光停止)を選びます。
- マスターの発光モードをM(マニュアル)にした場合は、セレクトキー \triangleleft により、右端の設定値選択の項目に移動し、発光レベルを選びます。

① 注意

…(発光停止)を選択した場合、シャッターを切るとマスターストロボが発光しますが、この発光は、モニタリングのためのプリ発光で、露光前に行われるため、実際の露出には影響しません。

●グループBを追加する場合

※グループBを追加するには、グループAの設定が必要になります。

【グループAでTTLモードを選んだ場合】

- セレクトキーにより、B(グループB)の項目に移動します。
- セレクトキー \triangleleft により、中央の発光モード選択の項目に移動し、TTL(A:B)を選びます。

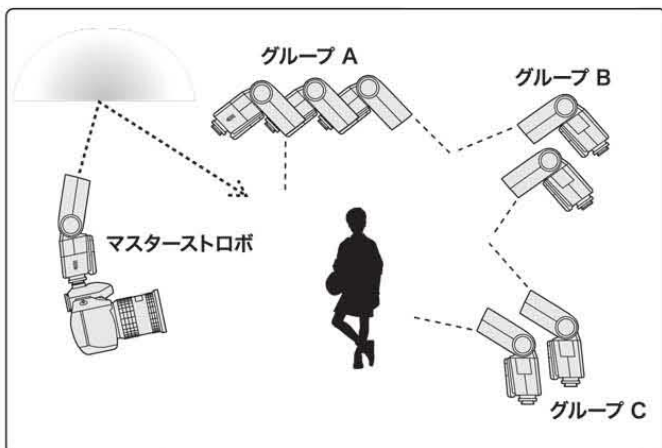
28

- マスターの発光モードをTTLにした場合は、セレクトキー \triangleleft により、右端の設定値選択の項目に移動し、調光補正値を選びます。

【グループA、BでM(マニュアル)モードを選んだ場合】

- セレクトキーにより、C(グループC)の項目に移動します。
- セレクトキー \triangleleft により、中央の発光モード選択の項目に移動し、M(マニュアル)を選びます。
- セレクトキー \triangleleft により、右端の設定値選択の項目に移動し、発光レベルを選択します。
- セレクトキーにより、M(マスター)の項目に移動します。
- セレクトキー \triangleleft により、中央の発光モード選択の項目に移動し、M(マニュアル)または…(発光停止)を選びます。
- マスターの発光モードをM(マニュアル)にした場合は、セレクトキー \triangleleft により、右端の設定値選択の項目に移動し、発光レベルを選びます。

ワイヤレスTTLの設定例



30

- セレクトキー \triangleleft により、右端の設定値選択の項目に移動し、AグループとBグループの光量比をセットします。光量比は、下記のように13通りの組み合わせがあります。 \triangleleft

8:1、5.6:1、4:1、2.8:1、2:1、1.4:1、1:1、1:1.4、1:2、1:2.8、1:4、1:5.6、1:8

- セレクトキーにより、M(マスター)の項目に移動します。
- セレクトキー \triangleleft により、中央の発光モード選択の項目に移動し、TTLまたは…(発光停止)を選びます。
- マスターの発光モードをTTLにした場合は、セレクトキー \triangleleft により、右端の設定値選択の項目に移動し、調光補正値を選びます。

【グループAでM(マニュアル)モードを選んだ場合】

- セレクトキーにより、B(グループB)の項目に移動します。
- セレクトキー \triangleleft により、中央の発光モード選択の項目に移動し、M(マニュアル)を選びます。
- セレクトキー \triangleleft により、右端の設定値選択の項目に移動し、発光レベルを選択します。
- セレクトキーにより、M(マスター)の項目に移動します。
- セレクトキー \triangleleft により、中央の発光モード選択の項目に移動し、M(マニュアル)または…(発光停止)を選びます。
- マスターの発光モードをM(マニュアル)にした場合は、セレクトキー \triangleleft により、右端の設定値選択の項目に移動し、発光レベルを選びます。

●グループCを追加する場合

※グループCを追加するには、グループA&B(A:B)の設定が必要です。グループCはA、Bグループの光量比制御から独立して設定されます。

【グループA、BでTTLモードを選んだ場合】

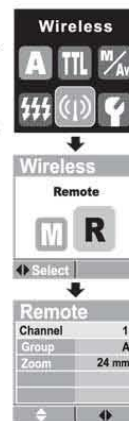
- セレクトキーにより、C(グループC)の項目に移動します。
- セレクトキー \triangleleft により、中央の発光モード選択の項目に移動し、TTLを選びます。
- セレクトキー \triangleleft により、右端の設定値選択の項目に移動し、調光補正値をセットします。
- セレクトキーにより、M(マスター)の項目に移動します。
- セレクトキー \triangleleft により、中央の発光モード選択の項目に移動し、TTLまたは…(発光停止)を選びます。

29

リモートストロボの設定

リモートストロボは、チャンネル、グループ、照射角の設定が行えます。リモートストロボのモード設定は、マスターストロボによってTTLかマニュアルモードに設定されます。

- 6つのアイコンが表示されるメニュー画面上で、セレクトキー \triangleleft を押し、(1) マークを選びSetボタン Set を押します。ワイヤレスTTLモードの画面が表示されますので、セレクトキー \triangleleft により[R]を選び、Setボタン Set を押します。Di866 MARK IIがリモートに設定されたことを表すために、AF補助光が2秒ごとに点滅します。
- セレクトキー \triangleleft を押し、Channelを選択し、続けてセレクトキー \triangleleft により、チャンネル1~4のうち使用するチャンネルをセットします。
- セレクトキー \triangleleft を押し、Groupを選択し、続けてセレクトキー \triangleleft により、グループA~Bの中から使用するグループをセットします。
- セレクトキー \triangleleft を押し、Zoomを選択し、続けてセレクトキー \triangleleft により、ズーム位置を選択します。
- 「オン/オフスイッチ」を押すと設定がロックされます。(もう一度押すとロックが解除されます。)
- Setボタン Set を押すと、メニュー画面に切り替わりますが、他のモードが何も選択されなければ、8秒後に元のリモート設定画面に戻ります。設定値は記録されたままになっています。
- 複数台のリモートストロボを設定する場合も、上記と同じような設定を行ってください。
- グループは、任意のグループに設定してください。チャンネルは、マスターストロボと共通のチャンネルに設定してください。
- 発光モードの選択や、補正値や光量の変更はリモートストロボではできません。マスターストロボより設定を行ってください。



31



カスタム設定モード

Di866 MARK IIは、カスタム設定モードにより、好みの設定に変更できます。

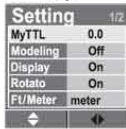
- メニュー画面の6つのアイコンから、セレクトキー<D>により、カスタム設定モードを選び、Setボタン<S>を押してください。
- セレクトキー<D>により項目を選び、セレクトキー<D>により設定値を選択することができます。
- カスタム設定モードでは、7つの項目を設定することができます。



My TTL マイTTL設定

■TTL調光レベルのカスタマイズ

Di866 MARK IIのTTL調光レベルは、標準的な露出バランスが得られるように正確に調整されたレベルになっていますが、ニッシンオリジナルのマイTTL設定により、ユーザー自身が本機のTTL調光レベルを好みのレベルに微調整できることもできます。設定範囲は、-3.0EV~+3.0EVまでで、1/3EVステップごとに調性が可能です。



Modeling モデリング発光

■照明効果を事前に確認することができます。

モデリング機能をOnにすると、テストボタンを押すことにより、小さなパルス発光による連続光を発光し、被写体への照明効果を事前に確認することができます。

Display ディスプレイ設定

■液晶画面の表示をオフにするエコモードです。

電力消費を抑えるために、液晶画面の表示を消すことができます。ディスプレイ設定をOffにすると、最後に操作を行ってから8秒後にディスプレイがOffになります。液晶画面は、カメラのシャッターを押しても復帰しません。液晶画面を復帰させるには、Di866 MARK IIのボタンのどれかを押してください。

Rotate 液晶画面回転設定

■液晶画面の回転機能をOFFにすることができます。

32

ft/meter フィート/メーター切替

■距離表示をフィートまたはメーターに切り替えることができます。

Auto Off オートオフ設定

■電源のオートオフの設定時間を変更することができます。選べる値は、10min. 15min. 30min.(初期設定) 45min. 60min. またはOff となります。

Firmware ファームウェア

■最新のファームウェアにアップデートするための機能です。現在のファームウェアのバージョンが表示されますので、アップデートが必要な場合は、ボタンを押します。それからUSBケーブルでパソコンに接続し、セットボタンを押します。詳しくはニッシンホームページをご覧ください。

Reset リセット機能

■各モードで行ったすべての設定がリセットされ、工場出荷時の状態に戻ります。

設定をリセットする場合は、セレクトキー<D>を押して、2ページ目のResetを選び、セレクトキー<D>でYesを選択しSetボタン<S>を押します。すべての設定値がリセットされ、工場出荷時の値に戻ります



Buzzer ブザー音

■ワイヤレスTTLモードで利用できます。リモートストロボがマスターストロボの発光に同調したことをビープ音で確認できます。

- カスタム設定モードで行った設定は、すべてのモードに適用され、また、電源をオフにしても設定は記憶されます。



カメラによってセットされる機能

FEロック機能

FEロック機能は、A(フルオート)またはTTLモードでご利用できます。背景と被写体の明るさが異なる場合や、被写体が画面の中央部から外れている時など、ストロボの自動調光が意図しない発光量にセットされることがあります。そのような場合は、FVロックにより任意の部分に露出を合わせて調光させることができます。被写体にピントを合わせ、カメラの<*>または<FEL>ボタンを押すと調光がロックされます、そのまま、撮影アングルを決めシャッターを押します。



33

その他の特徴

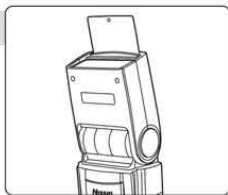
AF補助光

Di866 MARK IIは、低コントラストの被写体や、暗所などで撮影を行うとき、自動的にオートフォーカス補助光を被写体に照射しフォーカスしやすくします。

キャッチライトパネル

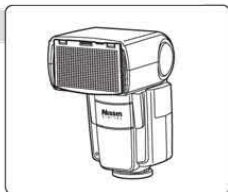
バウンス撮影時、近距離でキャッチライトパネルを使用すると、被写体に対する前面からの光を補い、顔の表情などを明るくすることができます。

- 被写体が近距離(約2m以内)にあるとき、メイン発光部を上方に回転させ、図のように内蔵キャッチパネルを引き出します。
- キャッチライトパネルによる反射が被写体にソフトな光を照射します。赤ちゃんやペットなどを撮影する時に便利です。



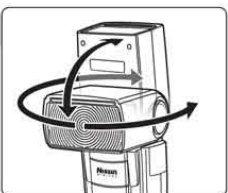
ワイドパネル

ワイドパネルを使用する時は、内蔵ワイドパネルを図のように引き出して、発光部前面に被せます。ワイドパネルが発光を拡散し、最大広角18mmまでの焦点距離をカバーできます。



バウンス

メイン発光部を回転させて発光させることをバウンス発光といいます。屋内で、天井や壁などにストロボ光を反射させてバウンスを行うことにより、被写体へ間接光が照射されナチュラルな効果を与えることができます。



①バウンス撮影時のご注意

天井や壁までの距離が離れている時は、発光量が不足して十分な効果が得られない場合があります。また、天井や壁が白以外の色の場合は、反射光が着色され、被写体が色かぶりを起こす場合があります。バウンス発光は、光が減衰しますので、十分な効果が得られない場合は、カメラのISO感度を上げて撮影を行ってください。

34

外部電源用端子



外部電源を使用すると、発光回数を増やし、発光間隔を短くすることができます。外部電源を使用する場合は、Di866 MARK II 本体の電池も使用しますので、取り外さないようにしてください。

外部電源	発光回数(フル発光時)	発光間隔
Nissin Power Pack PS-300	約500 flashes	約0.1~0.7sec.
Canon CP-E4	約260 flashes	約0.1~1.5sec.

①連続発光時のご注意

Di866 MARK IIで連続発光を行う場合は、過熱防止のため、20回を超えて連続発光を行わないようにご注意ください。発光部が過熱して、部品が損傷したり、発熱箇所に触れて火傷をしたりする場合があります。連続発光を行った後は、Di866 MARK IIの温度が十分下がるまで、自然冷却を行ってください。(約10~15分かかります)

●過熱防止機能について

Di866 MARK IIは過熱防止機能を備えています。連続使用により本体の温度が上昇しすぎると、過熱防止機能が働き、安全のため発光停止し操作ができなくなります。液晶画面には図のように「OVERHEAT」という文字が表示されます。本体の温度が十分に下がると再び操作および発光が可能になります。

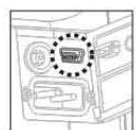


ファームウェアアップデート用USB端子



本機は、ファームウェアのアップデート用USB端子を備えています。アップデートに関する情報は、ニッシンジャパンのホームページ

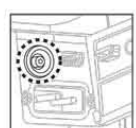
<http://www.nissin-japan.com> でご覧いただけます。



シンクロ端子



Di866 MARK IIはシンクロコードによる接続ができるシンクロ端子をご用意しています。市販のシンクロコードによりカメラのシンクロターミナルと接続し、本機と同調させることができます。



35

主な仕様

使用可能なカメラ:	キヤノン製デジタル一眼レフカメラ
ガイドナンバー:	照射角105mmのとき60 (ISO100, max.) 照射角35mmのとき40 (ISO100) (P.38のガイドナンバー表をご参照ください)
最高出力:	83Ws。(フル発光時)
カバーする焦点距離(照射角):	24~105mm以上(自動ズーム) 18mmワイドパネル内蔵
電源:	単3形4本使用(電池別売)※ニッケル水素電池(エネープ)、アルカリ乾電池、リチウム乾電池など
充電の速さ (充電時間、発光間隔)/充電表示:	約0.1~5.5秒(ニッケル水素電池、アルカリ乾電池) (アルカリ乾電池)/緑色パイロットランプ点灯
発光回数:	約150~1,500回(アルカリ乾電池)
閃光時間:	マニュアルモード時 1/300秒(FULL)~1/22000秒(1/128) TTLモード時 1/300秒-1/30000秒
節電機能:	【オートパワーOFF】無操作状態から約30分後に電源OFF(初期設定) ※オートパワーOFF設定値は、OFF、10分、15分、30分、45分、60分 【ディスプレイ設定】OFF設定で、スタンバイモード時に液晶非表示。
色温度:	約5,600K

調光方式およびワイヤレス機能	モード:	【フルオート】 E-TTL、E-TTL II 【TTL】 E-TTL、E-TTL II
	【外部調光】	※ストロボ調光補正、マニュアルZOOM、サブ発光機能が使用できます。 F1.4~16(ISO100)、1/3EVステップ ※対応するカメラでセットしたISO感度が自動連動します。カメラでセットした絞りは自動連動しませんので、ストロボでセットした絞りに対し、カメラの絞りを覚えて露出の補正を行うことができます。 ※マニュアルZOOM、サブ発光機能が使用できます。
	【マニュアル】	発光量FULL~1/128、1/3EVステップ ※マニュアルZOOM、サブ発光機能が使用できます。
	【マルチ発光】	発光間隔1~90Hz、発光回数1~90光量、発光量1/8~1/128
	ワイヤレス機能:	【ワイヤレスTTL(マスター/リモート)】 チャンネル数: 4 グループ制御: A、B、C、3グループ モード: OFF/TTL(光量比制御) マニュアル(FULL~1/128、1EVステップ)
	【スレーブ】	プリ発光対応デジタルスレーブ(手動設定モード時) ※バウンス時にサブ発光が使用できます。 アナログスレーブ(手動設定モード時) ※バウンス時にサブ発光が使用できます。
	調光補正機能:	-3.0~+3.0EV、1/3EVステップ(TTL調光モードおよびワイヤレスTTLモード時)
	マイTTL設定:	-3.0~+3.0、1/3EVステップ
	FE/FVロック:	カメラの[FE]、[AEL]または[*]ボタンによる

36

その他の機能	サブ発光部:	ガイドナンバー12、マニュアル光量設定(1/1、1/2、1/4、1/8、1/16、1/32、1/64、1/128 1EVステップ) ※サブ発光部は、メイン発光部がバウンスのときのみ発光可能。
	後幕シンクロ:	
	ハイスピードシンクロ:	
	AF補助光:	有効距離 0.7~10m

表示部・操作部・機構	背面液晶表示部:	自動回転機能付きカラー液晶(自動回転OFF設定可)
	電源ボタン:	プッシュボタン式(兼操作ロックボタン)
	操作ボタン:	十字セレクトボタン
	バウンス機構:	上方90°左90°右180°(ロックなし)
	電池収納方式:	バッテリーマガジン方式(当社Di466と共通)

取得電圧	端子電圧:	約3.8V ロックピンによる固定
------	-------	---------------------

外部端子	ファームウェアアップデート端子(USB)	
	外部電源用端子: 使用できる外部電源…ニッシンパワーバックプロPS-300、キヤノン製外部電源シンクロ端子	

付属品	ソフトケース、三脚ねじ穴付きスタンド
-----	--------------------

寸法・重量	大きさ(高さx幅x奥行):	約134x74x110mm
	質量(重量):	約380g(電池除く)

※製品の外观・仕様・価格などは都合により予告なく変更する場合がございます。
※記載データは、当社基準によります。

オプション

●ユニバーサルシューコード SC-01

カメラからストロボを離して使用できるTTLコード。キヤノン、ニコン、ペンタックス兼用
希望小売価格**6,800円**



●バッテリーマガジン BM-01

交換用バッテリーマガジン 希望小売価格**2,000円**

ガイドナンバーと閃光時間について

マニュアルモード時のガイドナンバー (ISO100)

発光レベル

ズーム位置	Full	1/2	1/4	1/8	1/16	1/32	1/64	1/128
24mm	31	22	16	11	8	5.5	4	2.5
28mm	36	25	18	12.5	9	6.5	4.5	3
35mm	40	28	20	14	10	7	5	3.5
50mm	46	32	23	16	11.5	8	5.5	4
70mm	52	36	26	18	13	9	6.5	4.5
85mm	54	38	27	19	13.5	9.5	7	5
105mm	60	42	30	21	15	10.5	7.5	5.5
閃光時間(秒)	1/600	1/900	1/1500	1/3200	1/5000	1/9000	1/15000	1/22000

トラブルシューティング

ストロボが充電しない。

- 電池の向きを確かめて、
▶▶▶ 逆向きになっている場合は正しく挿入してください。
- 電池が消耗していないか確認して、
▶▶▶ 消耗している場合は、新しい電池と交換してください。

ストロボが発光しない。

- ストロボがカメラにしっかり固定されているかどうか確認してください。
▶▶▶ しっかり固定しなかった場合は、奥まで差し込んで固定してください。
- ホットシューの接点に汚れがないか確認してください。
▶▶▶ 汚れている場合は、乾いた布で拭いてください。
- オートオフ機能により電源が切れている場合があります。
▶▶▶ その場合は、電源を再度入れ直してください。

写真が露出オーバーまたはアンダーになる。

- 被写体のそばに反射物などがあって、正常に調光されない場合があります。
▶▶▶ その場合は、FVロック機能をご使用ください。

38

37

Nissin ニッシンジャパン株式会社

〒167-0053 東京都杉並区西荻南3丁目18番15号 西荻昭和ビル3階
TEL 03-5336-4712(代) FAX 03-5336-4714
ニッシンジャパンのホームページ www.nissin-japan.com